



「中川根・本川根」 合同中学野球部 の挑戦



さあ、はじめようか

全員野球で勝利を

「エラーをしないチームをつくっていききたいです」。中川根・本川根チームの主将小田健太さんは夏の大会に向け目標を力強く話してくれました。

3月12日、下泉の町営グラウンドで袋井市の周南中学校と練習試合を2試合行いました。善戦したものの、2試合とも0対1で負けてしまいました。

2月に行われた中学野球の春の王座を争う第46回県中学選抜大会では、初出場ながら、1回戦は御殿場南チームに1対0で勝利し、2回戦は浜松天竜チームに惜しくも3対4で負けてしまいました。大会後、インフルエンザや雨の影響を受け2週間ぶりの実戦となった今回の練習試合。小田主将は初回の立ち上がりもたついたことと、声掛けや集中力が欠けたことを敗因にあげました。

敗北から何を学び、生かしていくのか。ユニホームを新調した合同チームの戦いはスタートしたばかり。これからも「挑戦」に注目したい。

Baseball Coach>>Takeru Ito



伊藤 雄 監督 「基本に忠実であれ」

当たり前のことをできるチームを目指したい。そのために基本に忠実に、守備でリズムをつくり、しっかり攻撃できる戦いが理想。キャプテン中心に自分たちで考えて要所を締めることのできるチームに成長して欲しい。

「あきらめない心」 小田健太 主将

チーム全体で走塁を磨いていきたい。盗塁やバント攻撃時の走塁、ランナーの動きを見逃さない守備など試合展開に合わせた動きができるように集中力を高めて試合に臨みたい。

Captain>>Kenta Koda



中川根南部小学校
山下 育校長先生

中川根南部小学校5年
原田瑛司さん



▲県教育長賞の賞状と
トロフィー

サントリー奨励賞の盾

サントリー奨励賞の賞状

第61回青少年読書感想文全国コンクール (全国学校図書館協議会・毎日新聞社主催、内閣府・文部科学省後援、サントリーホールディングス協賛)

サントリー奨励賞・静岡県教育長賞受賞

中川根南部小学校5年 原田瑛司さん

第61回青少年読書感想文全国コンクールには、全国2万6,481校から450万946編の応募があった。同コンクールは地区、県を経て、全国へとつながる読書感想文コンクール。原田瑛司さんは、静岡県審査会で最高賞である静岡県知事賞に輝き、全国の中央審査会では内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、毎日新聞社賞、全国学校図書館協議会長賞に次ぐ「サントリー奨励賞」に輝いた。「インスタントラーメン誕生物語：幸せの食品インスタントラーメン生みの親・安藤百福」(PHP 研究所)を読み、日清食品グループの創業者である故安藤百福(ももふく)さんから原田瑛司さんが学んだことは、

「百福さんからもらったもの」

「う まい！疲れが取れる！幸せだ！」
ぼくは、空手の練習から帰ると、時々、日清食品のチキンラーメンを一気に食べる。(このラーメンの幸せ気分はどこから来るのだろうか。)といつも思っていた。そんな時、「インスタントラーメン誕生物語」との出会いがあった。その本には、ラーメンの出来るまでの苦労が書いてあり、おどろきと感心の連続でぼくは一気に最後まで読んでしまった。

「日 清ラーメンの社長「安藤百福さん」は、とても粘り強く、ラーメンの開発・実験をくり返していた。めん水分の具合はこれで良いかと何回も試したり、スープは二ワトリを一羽丸ごと圧力がままで煮つめて、味にコクと深みのあるものにした。だから、こんなにうまいんだとチキンラーメンの美味しさがなつとくできた。そして、何よりも百福さんの研究熱心な所がぼくは大好きだ。ぼくも実験したり試したりすることにとても関心がある。

「ぼくは、二年生の夏休みから、薬草の研究をずっと続けている。今年で四年目だ。三年生の夏休みに図書館で調べたら、スイカは利尿効果を助け、腎臓の働きをよくすると書いてあった。さらに、スイカ糖にすれば、甘さが増してさらにおいしくなり、薬用にもなるという。ぼくの研究心に火がついた。やるしかない！祖父と一緒に島田の親せきで、大きなスイカ

を三個もらってきた。スイカ糖を時間をかけて作ったが失敗。火加減が難しく何度も失敗してしまった。何個のスイカを使っただろう。小さな火で絶えずかき混ぜなくては、こびりついてしまう。こげたら台無しだ。そして、やっとやっとできたスイカ糖。できたスイカ糖を小さなビンに入れた時、うれしさがこみ上げてきた。

「良 族に喜んでもらったね。おいしいよ」と、学校で、先生や友達に食べてもらって「おいしいじゃん！すごい！」と言われた。笑顔で喜んでくれた時のことは今でも忘れない。その時の思い：うれしさがこの本を読んで強く思い出された。百福さんも同じだった。たくさんの人の笑顔を見たかったんだ。百福さんの思いは、それを阪神淡路大震災の時も発揮された。「チキンラーメン号」を出動させ三十万食のチキンラーメンを配った。多くの人の体をあたたため、空腹を満たし、心をなぐさめてくれた。ラーメンのおいしさは、心のぬくもりだと感じた。百福さんの気持ち伝わった瞬間だと思った。そして、何より百福さんの信念である「食創為世」(食をつくり、世のためにつくす)という言葉を実行したのである。そうやって自分の決めたことを実行することのすごさをぼくは改めて学んだ。これからも、研究することはよくにとって大きな力の源になる。でも、上手くいくことばかりではないだろう。その時こそやり遂げる「強さ」を持って取り組みたい。百福さんを目標に!!